

災害と派遣保健師の活動

～新潟県中越沖地震等の体験から～

福井県奥越健康福祉センター 池田範子

派遣元には・・・

◆厚生労働省健康局総務課保健指導室(長)から県へ

* 7月16日深夜、派遣協力の照会文書(FAX) (第1報)

- ・派遣体制の一元的管理・調整
- ・被災地現地での保健師活動の概要と留意事項

◆新潟県知事から各都道府県知事へ

* 7月17日 「新潟県中越沖地震にかかる被災地における

保健師等の参加について(依頼)」文書

派遣元では・・・

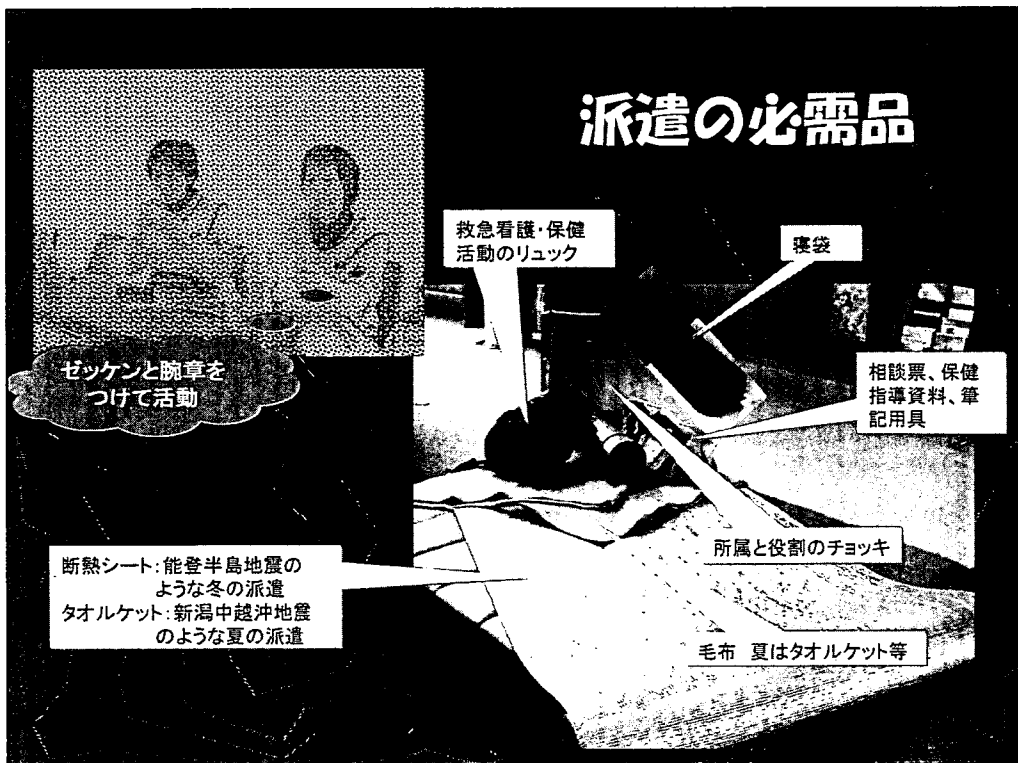
◆県主管課から各健康福祉センター（長）へ

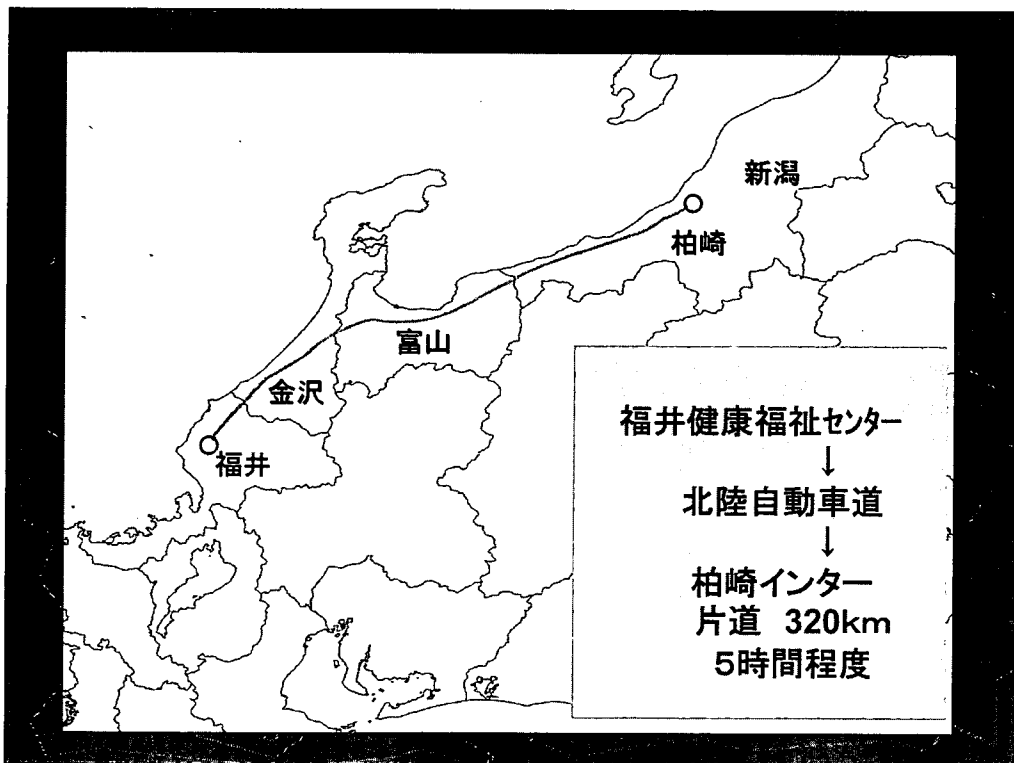
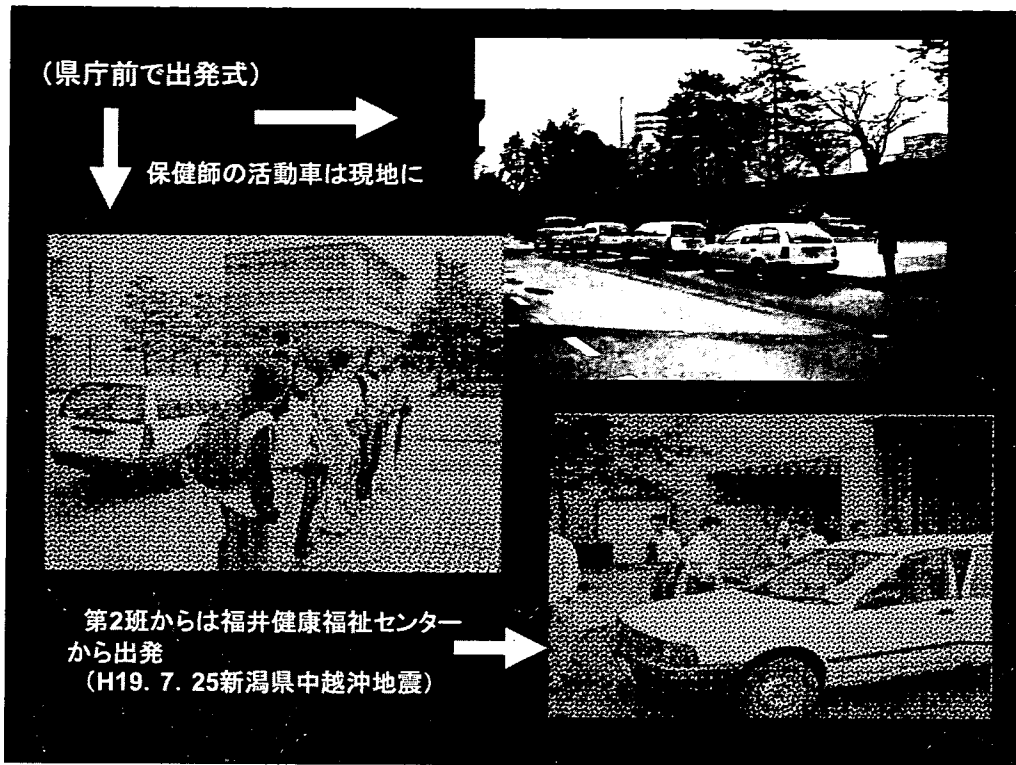
* 7月17日、11時 「新潟県中越沖地震にかかる保健師の派遣について」 FAXによる依頼

◆健康福祉センターでは

* 7月17日、12時 管理者で検討、派遣保健師の調整・決定

* 地域支援長（総務管理者）、保健師管理者が職員に連絡・情報提供





派遣体制

- ◆期 間 7月18日～8月12日まで
- ◆派遣数 2名1チーム 3泊4日 延べ64名
- ◆活動場所(拠点)
 - ①中通コミュニティセンター
避難者250名→21名
 - ②柏崎市立中通小学校
避難者80名→12名
- ◆他県の保健師と避難所における健康支援を担当
 - ①避難所での保健活動
 - ②被災地域の訪問活動
- ◆7/20～8/8は高知県、8/9～8/12は広島県と実施



1日のスケジュール

6:00	健康チェック 配膳・食事介助・環境整備
9:00	全体ミーティングへの参加 各避難所を拠点に被災者の健康相談、家庭訪問、健康調査
13:00	各県派遣元等への報告、各避難所の引継ぎ 各避難所を拠点に被災者の健康相談、家庭訪問、健康調査
17:00	全体ミーティングへ参加 配膳・食事介助・環境整備
19:00	健康チェック 避難所内ミーティング
21:00	被災地災害対策本部への活動報告 派遣初期は、高齢者の介護、感染症対応、深夜も対応
22:00	就寝前の巡回

避難所における派遣保健師の活動

	1週 7/18~22	2週 7/23~29	3週 7/30~8/5	4週 8/6~12
乳幼児	3	10	13	4
高齢者	1	1	1	9
成人	4	12	2	2
障害者	4	3	1	2
その他	24	53	32	85
計	119	266	379	330
課題	・高齢者運動不足 ・倦怠感、便秘訴え ・気温、湿度上昇 ・授乳や養育上の不衛生	・高齢者の運動不足、便秘 ・介護高齢者の増 ・生活環境不衛生	・温度上昇による熱中症 ・不眠(暑さ)	・糖尿病患者の食事問題 ・精神障害者の状態悪化
主な対応	避難所の整備 ・設備・物品調達 ・拠点整備 感染症対策	・関係機関との調整、連絡(要支援者処遇) ・家庭訪問開始(高齢者独居) ・巡回診療(介助)	・エコノミー症候群のチェック ・被災地の健康ニーズ調査	・要支援者の訪問 ・熱中症対策 ・感染症 ・活動のまとめと報告(災害保健活動報告会)
	← 健康チェック	健康相談	環境整備	感染症対策 →

避難所での主な活動(1)

【連絡調整、情報管理・共有化】

・対策本部(災害現地)

全体及び保健・看護スタッフとのミーティング

・避難所

公民館職員、自治会役員、民生委員、保健福祉関係者とのミーティング

必要とされる保健・医療・福祉・ボランティアの要請

臨時に設置されたミーティング室で、現地職員、派遣保健師、医療・福祉ボランティアによる報告

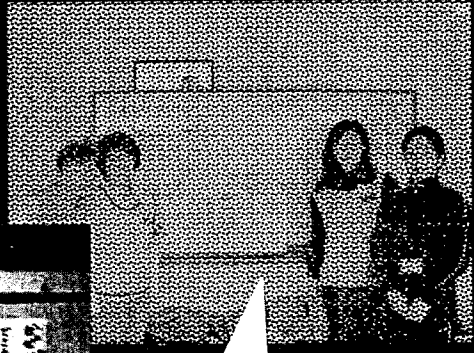
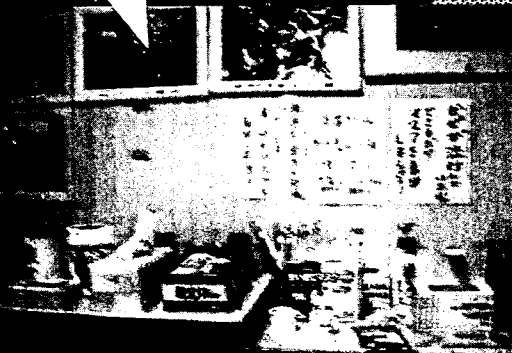


災害現地の保健医療対策委員長

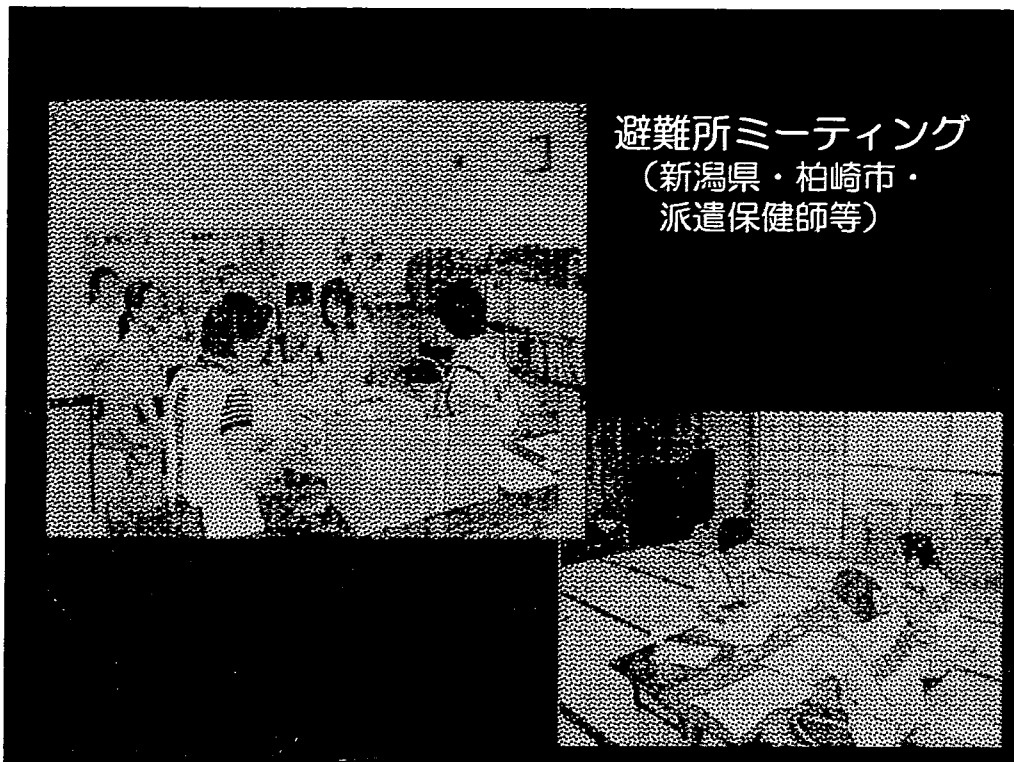


避難所の状況

感染予防の手洗い、うがい等呼びかけるチラシを作成。



避難所の状況をホワイトボード等書き込み、交代するスタッフ間で情報を共有していました。



避難所での主な活動(2)

【直接的な健康支援】

- ①健康チェック・健康相談・こころのケア
- ②二次的健康被害予防(感染症、熱中症、食中毒)
 - ・手洗い・うがいの徹底
 - ・感染予防の健康教育
 - ・換気、清掃促し、トイレ清掃等環境整備
- ③家庭訪問(健康ニーズの把握)



避難所での主な活動(3)

【環境・衛生面の管理】

- ①生活物資の調達
 - ・不足・必要物資の調達
- ②施設管理
 - ・冷房(暖房)の管理
 - ・環境整備
 - ・消毒
- ③食品管理
 - ・残飯処理等、食中毒予防

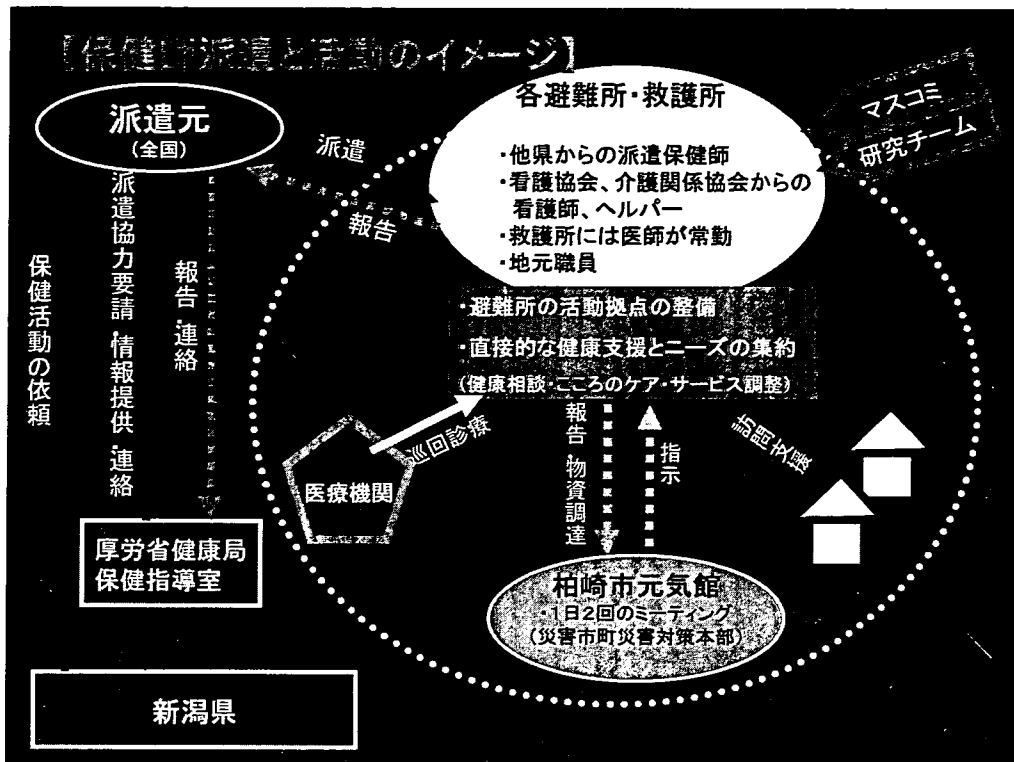


避難所での主な活動(4)

【要経過観察者の整理と地元保健師への引継ぎ】

- ・家庭訪問、健康相談
による一覧表の作成





派遣保健師の活動から

- ◆被災地の実情に応じた臨機応変な活動体制づくりと、自己完結型による活動が必要
- ◆保健師活動は派遣者同士の引継ぎも必要であるが、地元職員(専門職以外)への引継ぎも視野に置く
- ◆派遣先の保健活動に現地のマップ、保健医療福祉情報は必要
- ◆災害直後は避難所内も混乱、しかし派遣保健師の配属について地元職員への周知も必要

- ◆派遣元への適時・適切な情報提供、一元的な情報管理調整により、派遣元の末端（保健所等）でも安心
保健指導室臨時ミーリングリスにより
 - ・地震関連に関する連絡、情報提供
 - ・保健指導に必要とする資料の提供
（感染症、生活機能低下、エコミークラス症候群等の予防
 - ・避難所における保健医療活動の実施状況と課題

- ◆被災自治体を実施した節目および終結時の全体ミーティング実施の効果
（8/11 柏崎市・刈羽村合同災害保健活動報告会）

厚生労働科学研究費補助金 地域健康危機管理研究事業

自然災害発生後の2次的健康被害発生防止及び有事における
健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究

平成19年度 総括・分担研究報告書

平成20(2008)年3月31日発行

事務局 日本大学医学部公衆衛生学分野
主任研究者 大井田 隆
〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1
TEL(03)3972-8111 FAX(03)3972-5878
e-mail : tohida@med.nihon-u.ac.jp